

## 博士論文の審査結果の要旨

専攻	医療・生命薬学専攻	分野	
学籍番号	13R3003	院生氏名	今井 太郎
通学キャンパス	東京青山キャンパス		
論文題目	漢方治療に対する経済評価の現状		
審査結果(枠で囲む)	合格 不合格		
<p>&lt;審査結果の要旨&gt;</p> <p>1. 主論文について</p> <p>1) 研究の概要</p> <p><u>研究の意義・目的</u>：本研究は、我が国の社会問題となっている医療費高騰を背景に、漢方治療の経済性に関する現状を把握することを目的とし、漢方治療の経済評価研究と考えられる文献をレビューするとともに、漢方治療の臨床的エビデンスを報告した論文を基に西洋薬を漢方薬に置き換えることの医療経済的意義について検討を行ったものである。</p> <p><u>方法</u>：&lt;研究1&gt;においては、検索ソースとして医学中央雑誌 Ver.5 を用い、漢方治療の費用対効果を評価した論文を検索し、抽出された文献の文献種別、研究デザイン、費用の種類、疾患別、医療機関の種類、費用削減の解析・評価を行った。&lt;研究2&gt;においては、日本東洋医学会による漢方エビデンスレポートを参考にランダム化比較試験を用いた臨床エビデンスを報告した論文を収集し、漢方薬と西洋薬との薬剤費の比較を行った。</p> <p><u>結果・結論</u>：&lt;研究1&gt;において抽出された文献27件のうち費用が削減され、臨床効果が優れていたものは8件、臨床効果が同等のものは5件、臨床効果についての記載のないものは12件であり、漢方薬が経済性に優れるとするものが多かった。一方、&lt;研究2&gt;で抽出された104件の論文のうち費用が削減され、臨床効果が優れていたものは8件、臨床効果が同等のものは12件であり、薬剤費のみの比較では漢方治療が必ずしも経済的に優れているとは限らなかった。しかし、漢方薬はQOLの改善による間接経費等の削減効果に優れるものが多く、&lt;研究1&gt;および&lt;研究2&gt;で抽出された文献等の内容の網羅的検討より、六君子湯、麦門冬湯、麻黄湯は費用対効果の点において特に有用な処方である可能性が示唆された。</p> <p>2) 研究方法、論証、論文形式の適切性</p> <p>本研究方法の倫理的な問題はなく、論証、論文形式も適切である。</p> <p>3) 知見の新規性と価値について</p> <p>本研究は、漢方治療に関する既存の医療経済評価研究の数が極めて限られる中で、対象疾患によっては漢方治療が医療経済的に有用である可能性を示した研究として高く評価できる。</p> <p>2. 審査経過について</p> <p>審査会は平成29年1月11日および1月31日に2回開催し、使用している語句の統一化、語句の誤り、説明が分かりにくい部分等について論文の修正を求めたところ適切に修正された。</p> <p>3. 口頭試問の結果</p> <p>口頭試問において適切に応答した。</p> <p>4. 合否</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(薬学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	<p>主 査 中村 裕義</p> <p>副 査 八木 秀樹</p> <p>副 査 辻 稔</p>		